

平成19年度「業務改善アイデアコンテスト」における提案の実施状況

(平成19年6月1日～平成19年12月31日)

担当チーム名	アイデアコンテスト		実施状況等		
	提案内容 (提案者)	当初設定した達成スケジュール	実施(着手)年月日	具体的実施(着手)内容	費用対効果の検証等
総務チーム	学内郵便番号の導入 (椎尾一郎 研究科教授)	平成19年度中	平成19年6月	建物略称と部屋番号を組み合わせた学内郵便番号を設定。職員録に表示するとともに、全教職員及び学生に周知した。	本部及び部局で行われる郵便物の仕分作業時間が約10%短縮された。
教務チーム	掲示板の見易さを向上させる掲示方法の導入 (栗原瑶実 理学部数学科3年)	平成19年中	平成19年8月31日	・掲示板ごとに期限別の区分を設定。 ・掲示物の規格を統一。 ・休講情報を電子掲示板に集約。 ・最長掲示期間を3か月期間に設定。	掲示面積(26㎡)の10%が圧縮され、見やすさの向上に繋がった。
環境安全チーム	有償ボランティアによる危機管理対策 (通山正年 副学長(戦略担当))	平成19年中	平成19年11月5日	臨時用務員として、1名を採用。 ・大学構内巡回による危険箇所の報告、軽微な補修作業 ・放置自転車の整理、不法駐車の監視、整理及び駐輪・駐車の許可登録作業等 ・本館玄関周辺の清掃と除草作業 勤務時間 9時15分～16時 給与 非常勤職員給与規程を適用 今年度中の所要経費の見積り 660千円 予算の出所 本部共通経費	業者に外注した場合の所要額1,002千円に比べ、約34%の費用圧縮 今年度中の費用圧縮総額 342千円
総務チーム	学内便専用封筒の導入 (山田真二 研究科教授)	平成19年度中	平成19年6月	使用済封筒の再利用を促進するため、宛名用紙の参考例を示し、これを封筒に貼り付けて使用するよう周知した。	使用済封筒の再利用率が約5%向上した。
総務チーム	依頼文書等に担当者の連絡先を記載するなど問合せ先の明記 (佐々貴義式 研究科准教授)	平成19年度中	平成19年6月	依頼文書作成時のフォーマットを示し、全事務職員に周知徹底させた。	今年度から導入されたチーム制の実施に際し、事務分掌の変更等による混乱の回避に繋がった。
総務チーム	文書処理簿の電子媒体化 (兵藤徳和 図書・情報チーム)	平成19年度内	平成19年11月	既にスケジュール管理等に使用している市販ソフトを用いた文書処理の試行を8月から実施、11月から本格稼働。	従来の文書処理業務に費やしていた時間を30%短縮。また、文書処理簿を廃止することにより、約60千円の経費削減を図った。
教務チーム	シラバス入力に「一括転送」機能を付加 (佐々貴義式 研究科准教授)	平成19年度中	平成19年12月28日	既存システムの改善により、初期値として昨年のシラバス情報を反映させるとともに、テキストデータの取り込み機能を付加した。	事務作業の軽減につながり、教務チーム側の作業時間が約1割軽減された。また、教員側の入力作業の軽減も今後期待できる。

担当 チーム名	アイデアコンテスト		実施状況等		
	提案内容（提案者）	当初設定した達成スケジュール	実施(着手)年月日	具体的実施(着手)内容	費用対効果の検証等
図書・情報 チーム	利用効率の向上のため、学内に偏在している蔵書を図書館へ一元化（松田典子 博士後期人間発達科学専攻1年）	平成19年中	平成19年9月1日～	平成19年6月時点では、図書館の蔵書目録データベースで検索が可能な資料数は、全体の94%（561千冊）であるが、これを平成20年3月までにほぼ100%にするべくデータ登録を実施。併せて、目録詳細データが登録されているものの割合を53%から70%に向上。 全学蔵書のデータベース化に併せて、平成20年3月末に図書館1階に13万冊収容の電動式集密書架を設置するべく、準備中。これにより、図書館及び人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟の書架で51万冊の収容が可能になり、全学蔵書の75%が集中化される。今年度は文教育学部を中心に1万冊を学科から図書館に集中化。	図書の集中化により、学科で個別に管理・運営していた図書業務の短縮が図られるとともに、90㎡の余裕スペースが確保できた。 ユーザー側としては、全学蔵書のうち99%の図書がオンラインで検索可能となり、従前のカード検索が必要だった時に比べ、図書館に来館して検索する必要がなくなったことによる時間的節減、書名中の一部の単語からでも検索できることによる機能面での効果があった。 また、図書の集中化で、担当者が学内の部局学科図書室を回る必要がなくなり、時間節減面での効果があった。 今後、学内の蔵書の集中化を一層推進することにより、重複資料の処分も可能となり、全学的な蔵書保管スペースの節減面でも効果が期待できる。
図書・情報 チーム	図書館での現金徴収業務の軽減化を図る（餌取直子 図書・情報チーム）	平成19年中	平成19年10月1日	本学から他大学へ依頼する文献複写に必要な経費（ILL利用料金）について、学生の個人負担（現金による支払い）を大学の公費負担にする試行をスタートした。この取り組みは全国の大学図書館でも初の試みである。 これにより、図書館での現金徴収に係る業務が大幅軽減化され、関連する経理チームの事務も軽減された。 今年度中の所要経費の見積り 1,200千円 予算の出所 図書館経費、大学院教育改革支援プログラム経費等	「9時5時」体制が可能になるとともに、現金徴収に要していた職員の残業時間削減により、今年度中約 530千円の費用圧縮。更に、学生に対する学習支援サービスの向上にも寄与した。